

第3回 医療機器みらい研究会 開催報告

医療機器政策調査研究所

1. はじめに

医機連が示す産業ビジョン「Society5.0を支える医療機器産業をめざす」で医機連重点テーマとしている事項について、医療機器政策調査研究所（MDPRO）では企業の枠を超えて医療機器の「みらい」像を活発に議論できる場を提供することを目的に「医療機器みらい研究会」を開催しています。

第3回 医療機器みらい研究会（12月開催）では、第2回に引き続いて医機連重点テーマの1つ「イノベーションの加速に向けた環境の整備」に焦点をあて、東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センターの竹下康平先生を講師としてお招きし、イノベティブ開発により医療機器のビジネスを成功させるための実践的な戦略として、NDB、DPC等のオープンデータを徹底活用し、薬事戦略・保険戦略を見据えた開発についてご講演いただき、その後は質疑や議論が行われ、中身の濃い研究会となりました。



一般社団法人 日本医療機器産業連合会
JFMDA
The Japan Federation of
Medical Device Associations

MDPRO
医療機器政策調査研究所

第3回 医療機器 みらい研究会

イノベティブ開発を成功させる実践的戦略
～オープンデータを徹底活用した開発計画～

一般に既存の企業からはイノベーションが生まれにくいと書かれていますが、多くの場合、それはテーマの見つけ方や開発プロセスの理解不足、イノベーションに真向きな体制づくりにあるともいわれています。今までの取り組み方を検証してイノベティブ開発のプロセスを考えてみませんか。

医療機器みらい研究会は、
医機連会員、賛助会員及び
医機連ホームページで一般参加の広報を行
い、無料で開催しているもので、産業振興に
供するテーマを議論する場の提供を目的とし
て実施しています。

講師

竹下 康平 先生

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
先端医療情報技術研究所 助教

講演内容

今回の医療機器みらい研究会は、イノベティブ開発により医療機器のビジネスを成功させるための実践的な戦略として、NDB、DPC等のオープンデータを徹底活用し、薬事戦略・保険戦略を見据えた開発を行うプロセスや体制作りについて考えます。講師には、PMDA、厚生労働省、医療機器メーカー、医大にて医療機器に携わり、産官学それぞれの立場で幅広い経験をお持ちの竹下先生をお招きし、新しい視点でご講演いただきます。

日時

12月16日(月) 15:00～17:00
(質疑応答・討論を含む / 14:30開場)

会場

日本医療機器産業連合会 ルームA
新宿区下谷比町3-2 飯田橋スクエアビル 8階
* JR中央・総武線(各停) 東口改札口 徒歩5分
* 大江戸線 C1出口 徒歩3分
* 東西線・南北線・有楽町線 日出口 徒歩5分

受講料・お申込み

* 受講料: 無料
* 下記医療機器MDPROサイトからお申し込みください。
<http://www.jfmदा.jp/mdpro/>
* 申し込み締め切り: 12月4日(水)
* ただし、先着順で定員に達し次第締め切りとさせていただきます。



2. 開催概要

狙い：一般に既存の企業からはイノベーションが生まれにくいと言われており、多くの場合、それはテーマの見つけ方や開発プロセスの理解不足、イノベーションに見合った体制づくりにあると言われていています。今回は今までの取り組み方を検証してイノベティブ開発のプロセスを考えました。

日時： 2019年12月16日（月）15：00～17：00 （講演：90分、質疑：30分）

場所： 医機連 Room A

演題： 医療機器の「みらい」

イノベティブ開発を成功させる実践的戦略
～オープンデータを徹底活用した開発計画～

演者： 竹下 康平 先生

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
先端医療情報技術研究部 助教



3. 講演概要

講演は、制度的なところも含めて、NPBオープンデータを實際上医療機器開発にどう生かすのか、医療機器開発の中で必要な数字は何なのか？ どの数字を引っ張ってきたら自分たちが使える数字になるのか？ いくらマーケットが見込めるのか？ 競合の情報はあるのか？ 価格のプレミアはつくのか？ 患者数が多い病気であるのか？ また、外資の視点では、そもそも日本にこのプロダクトを持ってきて勝算はあるのか？ 等々の観点でNPBオープンデータをどう使えばよいのかについてご講演がありました。

具体的な事例として、①脳梗塞に対する治療 ②TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）の2点について、オープンデータを使っの薬事戦略及び保険戦略立案のしかたの詳細なご説明がありました。

竹下先生のキーメッセージは、薬事、保険のプロセス全体をマネジメントできる人を置き、全体の開発プロセスに横串を刺すことで開発の成功率が上げられ、それにオープンデータが活用できるのではないかというものでした。

4. 薬事戦略・保険戦略を見据えた開発に関するアンケート調査

講演を受けて、医療機器業界に属する聴講者が、薬事戦略・保険戦略を見据えた開発に関して講演終了後にアンケート調査を実施しました。

その結果を報告します。

なお、有効回答数は35件

（回答率81%）でした。

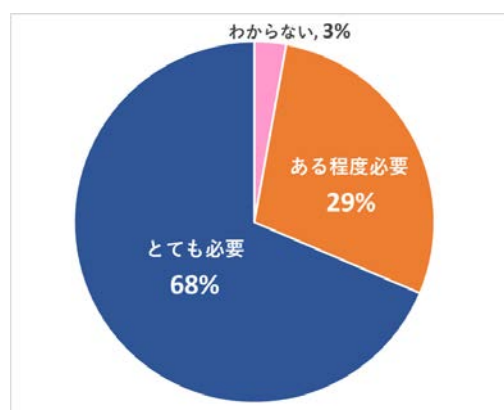


図1. 薬事・保険戦略を見据えた開発の必要性

Q : 薬事戦略&保険戦略を見据えた商品開発の取り組みについて研究会参加前の貴社の現状は？

Q : 本研究会の内容（薬事戦略&保険戦略を見据えた開発）を今後の商品開発に活用可能か？

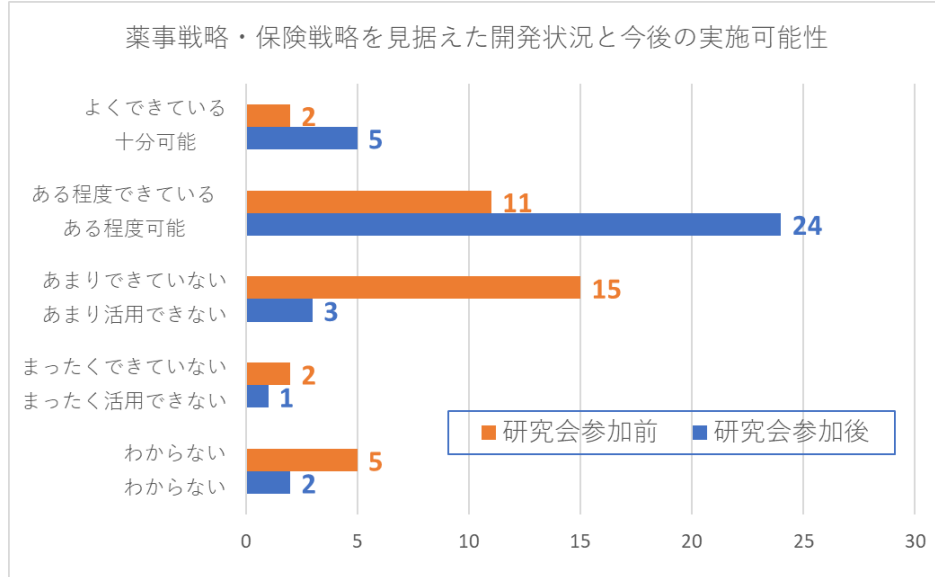


図 2. 研究会参加前後の変化

アンケート調査の結果、図 1 に示すように研究会後には、出席者の 97%が、薬事戦略&保険戦略を見据えた開発が必要と答えています。一方、図 2 に示すように、半数以上の企業で現状はそれができていないと答えているものの、研究会を受けて今後はそのような開発が実施できると答えている参加者は全体の 83%に上っています。このことから、今回の研究会の講演及び討議を通して、その重要性と活用方法の認識が増したものと考えられます。

5. 最後に

「医療機器みらい研究会」では、医機連重点テーマを取り上げて医療機器の「みらい」像を議論できる場を提供していきます。重点テーマには、「イノベーションの加速に向けた環境の整備」、「医療機器の安全管理・安定供給・安定稼動・トレーサビリティの強化」、「日本発の医療機器・技術のグローバル化を通じた医療機器産業の発展」、「診断・治療に加え、予防・介護分野へのニーズ拡大への対応」、「医療機器産業を支える人材の育成・獲得」があります。

今後も、医療機器産業の振興に意欲的な企業の皆様に参加していただき、活発に議論できる場を提供して参りますので、ご参加の程よろしくお願ひ申し上げます。

(医療機器政策調査研究所 青木 信宏 記)